

## 学校規模等適正化に関する説明会（山田小学校）における質疑回答

1. 日 時 平成 28 年 7 月 11 日（月） 午後 7 時から午後 10 時まで
2. 場 所 山田小学校 体育館（参加者 81 名）
3. 事務局 管理部：俣野参事、益田参事、兼瀬課長、北村主幹、松尾代理、  
田中主任、廣瀬  
学校教育部：花崎次長

### 4. 内 容

#### （質問 1）

小中一貫校が新しくできたとしても、常態的に大規模校になるので、説明と矛盾するのでは。また、施設一体型の学校に対する不安がある。交北小への通学路は本当に安全なのか。

#### （回答 1）

答申では、統合の実施時期を「早期に」としてはいますが、小中一貫校（施設一体型）のメリットデメリットについては、先進事例を参考にしながら調査・研究を進めるなど、じっくりと時間を掛けて取り組んでいく必要があるものと考えています。また、通学路については、学校統合の有無に関わらず、現在においても危険箇所があれば対応すべきと考えています。

#### （質問 2）

時間をかけてと言うなら、3年という期間は短すぎるのでは。

#### （回答 2）

期間については、今から3年後ということではなく、（仮称）統合協議会が設置されてから、概ね3年かけて様々な課題について、協議・検討することとされています。

#### （質問 3）

山田小は、進学中学が何度も変わってきた。過去の経緯や生じた課題を教育委員会も考えて欲しい。また、統合すると校区コミュニティ協議会はどうなるのか、

#### （回答 3）

学校の歴史や沿革については、重要な要素の一つとして検討を行っています。また、校区コミュニティ協議会は、新たな小学校区に基づくものであり、その実施時期等については、それぞれの校区コミュニティ協議会で検討されるものと認識しています。

#### （質問 4）

小中一貫校にしなくても、小規模校のメリットを生かせるのでは。小中一貫校にすれば解決するような目標を挙げているが、中一ギャップはどうなのか、もっと子どものことを考え、中学生がどんな悩みを抱えていて、どんな思いで学校に通っているのかなど、真剣に考えていただきたい。

#### （回答 4）

枚方市では本年度から、小中一貫教育の取組みを行っています。その中では、小中の教員の連携が非常に大事になってきます。中一ギャップについては、児童生徒の成

長にとって、必要な段差と段差の解消は分けてとらえる必要があります。また、小中一貫校（施設一体型）のメリットデメリットについては、引き続き、調査・研究を進めていく必要があるものと考えています。

（質問5）

市長公約で更に少人数学級編制にすれば、クラス数も増え、小規模化が解消されるのではないかと。また、小中一貫校のメリットは言うが、デメリットについては言わずに、枚方市の小中一貫校のモデル校にしたいというのでは納得できない。

（回答5）

学級編制基準は、枚方の独自の施策であり、更に支援学級にも手厚くしています。しかしながら、市長の選挙公約の少人数学級編制については、財政面等からの課題もあり、実現に至っていません。

（質問6）

答申との関係で、教育委員会の方々の立場について聞きたい。また、山田小の沿革は非常に重いと考えるが、それをどのように配慮したのか。小中一貫校の話はまさに唐突に出てきたように思うので、答申から削除すべきだ。

（回答6）

教育委員会としましては、答申は基本的に尊重すべきと考えますが、絶対的なものではないものと捉えています。答申では、5つの視点により比較・評価を行い、その中で沿革についても重要な要素の一つとして判断しています。また、統合の実施時期を「早期」としましたが、教育委員会としては小中一貫校（施設一体型）のメリットデメリットについては、引き続き、調査・研究を進めていく必要があるものと考えています。

（質問7）

市議会では可決しているのか。施設一体型小中一貫校は、今後全市で実施していくのか。また、交北小は浸水したら最高で5m浸水する地域だ。ハザードマップで確認しているのか。

（回答7）

今後、基本方針が定まれば、市議会に報告する予定です。また、本年度から全中学校区において小中一貫教育を進めていますが、当該校区以外での小中一貫校（施設一体型）は、敷地等の問題もあり、困難であると考えています。さらに、洪水ハザードマップによりますと交北小では5mの浸水深であることは認識しています。

（質問8）

統合すると通学距離も遠くなって危険性が増し、さらに大規模校になるがそれでいいのか。

（回答8）

通学路については、学校統合に関係なく、現在においても危険箇所があれば対応すべきと考えています。小中一貫校（施設一体型）のメリットデメリットについても、引き続き、調査・研究を進めてまいります。

(質問 9)

小中一貫校で、小学生と思春期の中学生と一緒に生活するのは、いろいろな意味でストレスがかかる。また、通学路も距離や安全性で問題がある。さらに、教員の負担も増える。一番は財源の問題が大きいのではないか。もっと子ども達のことを考えて、ゆとりのある教育をしていただきたいと思います。

(回答 9)

小中一貫校や通学距離によるストレスについては、ご指摘のような課題もあると考えます。なお、決して財源の面や効率の面で取り組んでいるものではないことをご理解いただきたいと思います。

(質問 10)

国は小中一貫校を目指しているけれど、枚方市は独自で少人数を目玉にした学校づくりを進めたらいいのでは。一人ひとりの子どもに目が届くし、先生方は子どもとの関わりも深くなり、全国レベルと一緒にしなくても良いのでは。

(回答 10)

小中一貫校については、市としては引き続き検討していきたいと考えています。また、将来の児童数が減少し、小規模校が増加する予測の中で、クラス替えができる程度の規模を確保することが望ましいと判断したものです。

(質問 11)

市は、この答申は絶対的なものではないとお答えした。統合に反対なので、答申を白紙に戻していただきたい。

(回答 11)

白紙撤回は厳しいものと考えます。

(質問 12)

白紙撤回の声が出たと市長や教育長へ伝えていただきたい。今日ここで初めてこの話を聞いた。適正規模というそのものに疑問がある。

(回答 12)

白紙撤回という意見が出たことについては、市長・教育長へお伝えします。また、昨年 12 月に答申案に対するインターネットを通じたアンケート調査を実施しました。さらに、適正規模については、文科省が示している適正規模の範囲に基づいて、審議会で定めたものです。

(質問 13)

統合の話は、校区コミュニティ協議会から報告があつて知った。審議会の学識委員の選出の経緯と討議の中身を知りたい。

(回答 13)

審議会の学識経験者の選出については、地元大学等に協力をお願いし、教育専門分野から推薦いただいた方を任命しました。また、審議会では、子どもの教育環境の改善を前提として、さまざまな議論がされました。

(意見 1)

審議会のメンバーを説明会に出席してもらいたい。白紙撤回の意見を申し上げ、教育論議をしながら本当のことを知りたい。

(意見 2)

ヨーロッパでは大体 20 人前後が 1 クラスの人数だ。本当に 1 人ひとりに行き届いた教育をしていくべきで、それを後退させる取り組みを適正化というのか。小中一貫校のメリットデメリットの検証は、3 年や 5 年でできるものではない。

(質問 14)

実際に山田中や交北小まで歩いてみたが、往復で 1 時間かかった。その距離は、物理的に無理ではないか。

(回答 14)

通学距離の課題については、教育委員会として十分に認識する必要があります。また、市の助成制度として、通学距離が直線距離 2 km 以上でかつ徒歩による危険性が認められる場合については、児童の保護者に対して公共交通機関の費用負担を助成できる制度もあります。

(質問 15)

白紙撤回が無理なら、この説明会は何の意味があるのか、意見を言っても意味がないと思う。今日の説明会は単なるスケジュールの一部で、結局統合されたということになりかねない。それを危惧している。

(回答 15)

本日の説明会は、答申の内容を適切に説明するとともに、今後、学校規模等の適正化に関する基本方針を取りまとめるにあたり、皆様から様々なご意見をいただくことを趣旨とするものです。なお、審議会の答申を尊重する観点から、白紙撤回は厳しいものと考えます。

(質問 16)

統合して、通学距離が遠くなると危険へのリスクが大きくなる。そんな状態で子ども達だけを歩いて行かせることはできない。実際に歩いてみて危険箇所を全て洗い出して欲しい。

(回答 16)

通学路の安全性については十分に認識するとともに、現時点においても危険箇所があれば、対策を行っていく必要があるものと考えます。

(質問 17)

地域から問題が出たから審議会を設置するのではなく、その逆であって住民不在ではないか。他の学校も含めて全ての情報を共有するくらいのことはして欲しい。また、ベクトルが一致するまでは統合協議会は設置しないと明言して欲しい。

(回答 17)

審議会では、昨年 12 月に答申案をまとめ、市民の皆様から様々なご意見をいただきました。それを踏まえて必要な修正を加え、本年 3 月に答申として出されたもので

す。また、(仮称)統合協議会の設置については、教育委員会の考え方を皆様方がご理解をいただくことが前提となると考えています。

(質問 18)

白紙撤回できないというなら、今度の会合の時にぜひとも市議会議員を連れて来て欲しい。市議会議員が駄目と言ったら、白紙撤回できるはずだ。議員の意見を聞かせて欲しい。

(回答 18)

答申の内容は決定事項ではなく、今後策定予定の基本方針において、市としての考え方をお示ししていきたいと考えています。

(質問 19)

今日出た意見を議事録として配布していただき、情報を共有化して欲しい。白紙撤回を願う意見も多かったと、資料を出して再度議論をして欲しい。

(回答 19)

本日いただいたご意見等をどのような形で共有化を図っていくのかについては、校区コミュニティ協議会やPTAと協議させていただいたうえで、決めさせていただきます。

(質問 20)

校区内の不審者等への対応について、統合して校区が広がった場合の想定も考えているのか。

(回答 20)

校区が広がった際の対応については、保護者や地域の方々に対して、これまで以上のご協力が得られるようお願いする必要があるものと考えています。

(質問 21)

放課後に学校の校庭が使えない。この学校に限らないが、その辺も考えていただかないと、子どもが安全に遊べない。

(回答 21)

児童に対する学校開放については、学校としても、夏休みの期間中の一部で暫定的に開放する方向で検討していることは認識しています。

(質問 22)

我々も小中一貫校(施設一体型)のメリットデメリットについて知っておきたい。

(回答 22)

小中一貫校(施設一体型)のメリットデメリットについては、皆様方と一緒に勉強会を実施するのも一つの方法であるものと考えます。

(質問 23)

スケジュール表の実施プランの作成から統合協議会へのフローの矢印表示は、先走り過ぎると思う。

(回答 23)

スケジュールについては、今後の手続きの流れを示したものです。また、次の段階

に進むためには皆様方のご理解とご協力が前提なることは認識しておりますが、表現方法については改めます。

(質問 24)

勉強会の日程はどうなるのか。

(回答 24)

日程等については、我々が検討させていただく時間が必要ですので、お時間をいただくこととなります。

(質問 25)

枚方市全体の問題として、市民活動課など他部署も含めて対応してもらうべきではないか。また、市議会や市長も参加して欲しい。

(回答 25)

今後の取り組みについては、関係部署とも連携を図りながら対応してまいります。

(質問 26)

最後まで参加したいが、途中で帰られた方がたくさんいる。勉強会も含めて、次回も続けて開催する責任があるのでは。

(回答 26)

今後のスケジュールや取り組み方法については、必要に応じて、校区コミュニティ協議会やPTAと協議させていただきますが、まず、本日の内容をどのように共有化を図っていくのかについて、優先的に取り組んでまいります。